

令和7年7月4日市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただいまから、市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

よろしくお願いいたします。今日は、発表案件は3件。

まず、南アルプスユネスコエコパークのミュージアムの開館です。これについては、南アルプスユネスコエコパークですけれども、山梨、長野、静岡の3県10市町村、これにまたがっていますけれども、ライチョウの生息地の世界的な南限としても有名で、今さら言うまでもないですけど、非常に自然豊かなところということです。

南アルプスの豊かな自然環境や井川地域の歴史文化を発信し継承する拠点として、南アルプスユネスコエコパークミュージアムと名付けましたが、これが7月12日土曜日にオープンいたします。今日は、そのご案内ということです。開館の当日は、オープニングセレモニーを実施します。それからキッチンカーでの出店、あるいはそば打ち体験、スペシャルトークセッション、開館記念イベントを実施しますので、ぜひお越しいただければと思います。

細かい内容については、省略をいたしますけれども、いよいよオープンということになります。まず初日を楽しんでいただければと思いますので、ミュージアムこんな感じですよということですけども。こういうパノラマシアターもあって、かなり没入感が得られるということです。まさに南アルプスに自分が行ったかのような感じに体験できるということになっています。ちょっと私まだ行ってないので、すでにこれを見た人によると、これは素晴らしいと言っていますので、ぜひお越しいただければと思います。

それから、自然の豊かさだけでなく、井川という独特の地域ですので、その歴史文化を伝える拠点ということもありますので、こういう井川の暮らしの展示エリアというのがあります。この井川地域は、自然と調和した暮らし方というのが特徴ですので、これは、これからの暮らし方のモデルの一つにもなると思いますので、そういった点で参考にいただければと思います。

それから、レストランを併設します。レストラン赤石です。そこでジビエ料理、鹿であるとかそういったもの、それから井川のそこにしかない在来、交配を他のところとしているのではなくて、昔から井川にある在来の野菜、それがありますので、それを食べていただく。それから茶そば、こういったものもあります。開館イベントでは、この蕎麦について、田形さんという蕎麦の名人がいますので、

この蕎麦の名人の田形さんが蕎麦のお話と、それから在来の蕎麦粉の話、在来の蕎麦というのはこれも他のところと交配してなくて、昔からそこにある蕎麦なので、非常に味見深いというのですかね、美味しい蕎麦ですので、十割そばを打つ体験というのもあります。

それから、スペシャルトークセッションということですけど、山好きの方においては、まさに神に近いような人と言えますけれども、まず望月将悟さん、望月将悟さんはこの井川の出身ですので、その望月将悟さんは、環太平洋、なんでもしたっけ名前、日本海側から山をずっと走って、静岡の海岸まで来るというレースがありますけれども、それで活躍された望月将悟さんと、それから登山家で、日本人初の 8,000m級の、世界にある 8,000m峰の 14 座を登頂された竹内洋岳さんです。この 2 人のトークセッションがありますので、ぜひ楽しみにしていただければと思います。ユネスコパークについては以上です。

次に、大浜公園のリニューアルオープンです。大浜公園は、1930 年に開館した歴史ある施設ですけれども、老朽化が進んでおりましたので、再整備をしてきました。今度の 19 日、7 月 19 日の土曜日にリニューアルオープンします。

プールを新しくしますので、以前は全て無料だったのですけれども、今度は夏の期間については、プールの営業期間は有料となります。そして、駐車場も有料となります。その他の公園施設は無料で、その他の公園施設はずっと 1 年間使える施設になりますので、こちら楽しんでいただければと思います。

7 月 16 日にプレオープンということで、イベントを開催いたします。海浜公園の状況をちょっとお示ししますと、これは都市公園ということで整備をしています。都市公園「大浜公園」ですけれども、面積が 3.2 ヘクタールで、再整備の総事業費は、整備費が約 30 億円かかっていますが、運営は FPI 事業で、民間の事業者の方に運営していただくという事業形態になっています。15 年間運営という契約になります。次、お願いします。

大浜の海浜公園ですので、こういった形で、以前からあった場所、同じ場所にはなりませんけど、ここにプールが開館します、オープンします。こちらにこういう都市公園等の施設があり駐車場があると、こちらにもう一つ収益施設、泊まったりできる施設があるのですけど、これは 1 年遅れておりますので、1 年後、2026 年 8 月に開業予定ということになります。

夏の期間、上に上げていただいて、まずはプールですけれども、こういう長さ 250 メートルの流水プールと、それから 25 メートルプール、それからウォータースライダーですね、こういうウォータースライダーもありますので、楽しんでいただければと思います。

それから、プールサイドには売店だとか有料シートとかそういったものもあり

ますし、バーベキューも楽しめる場所がありますので、ぜひ楽しんでいただければと思います。

料金ですけれども、こちらで、市内の方、高校生以上大人は 800 円、子どもが 400 円、幼児 100 円となりますが、シーズンパスというのがありますので、大人と子ども、大人ですと 8,000 円ということになりますので、近くの方、10 回行くと、800 円ですから元が取れることとなりますけれども、近くの方はどんどん行っていただければ、かなり安い値段で気楽に利用できるということになります。サンセット券だとかいろいろありますので、楽しんでいただければと思います。

もう一つ、駐車場ですけれども、公園内の駐車場もありますけれども、限りがありますので、この中島浄化センターのところに、近くに、もうちょっと地図を出してもらえますか、これですね。ここに安倍川があって、安倍川の河口のところに中島浄化センターという下水の処理場がありますけれども、ここに大浜公園がありますので、公園内にも駐車場ありますが、数が少ないのでこちらに置いていただいて、ここからは無料のシャトルバスが出るという形になります。ただし、これは有料期間、プールが開館をしている期間だけですので、それ以外の期間については、駐車場は無料ということになりますし、それからもちろん入場料も無料になります。

完成のイベントですけれども、これは 7 月 16 日に記念式典をしますが、そこではプレオープンのイベント、そして城南高校の水泳部の生徒による入水式、それから金メダリストの岩崎恭子さんのデモンストレーションもあるということですので、楽しみにしていただければと思います。

当日は 16 日のプレオープンのときは、地元の小中学生約 720 名を無料招待することになります。はい、では、大浜海浜公園については以上です。

次は、知・地域共創コンテスト 2025 の募集ということになりますが、これについては、去年から地域の共創コンテスト、これはスタートアップなどの新しい知、知恵、知性ですね、それと地域ですので、地域のいろいろなコミュニティだとか、企業だとか、団体がありますので、そこが一緒になって社会問題を解決していこうというプロジェクトですけれども、スタートアップの企業から、自分のところはこんなアイデアを持っているので、このアイデアを使って地域と一緒に社会問題を解決していきたいということをやっていくコンテストですけれども、2024 年から始めました。

2024 年は約 300 件の応募があって、その中から選定した 10 件について、共創チーム、一緒に問題解決のビジネスプランを作っていくという、ビジネスモデルを作っていくというやり方ですけれども、この 10 件について、今も実証実験

などを進めているところです。実証実験であるとか、実際のビジネスモデルの社会実装を進めているところです。

今回、第2回目となるコンテストを行いますけれども、今回は市が18項目の社会課題を提示しています。また、スタートアップの皆さんからも社会課題を提案していただいて、一緒にこんなことで解決していきましょうというアイデアを募集していくというものになります。これから、7月4日から募集を開始しますので、今年も大勢の方に募集をしていただければと思います。

去年、2024年は行政課題の提示型というのと、それからスタートアップ提案型というのと両方やっていたのですが、今回は一体となって行いますので、去年とは少し違いますけれども、審査のやり方等はほとんど一緒ですので、これもぜひ応募していただければと思います。

例えばですけれども、資料3-2ですので、そうですね、もうちょっと大きくして、そうですね、はい、例えば、スポーツとか健康である社会課題は、運動未実施層への運動習慣の定着促進ということで、何かアイデア、こうやったらもっともっと運動してもらって健康増進に繋がるのじゃないかというようなシステムを提案してもらおうということです。

はい、こういう、いろいろな課題について提案を募集しておりますので、ぜひお願いしたいと思います。

発表は以上です。ありがとうございました。

◆司会

それでは、ただいまの発表案件について、皆様からご質問をお受けしたいと思います。はい、静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

はい。静岡朝日テレビの林です。よろしく申し上げます。

1件目が南アルプスユネスコエコパークミュージアムです。3ページ目の2階、ジビエ料理や茶そばなどをお楽しみいただけますとあるのですが、このジビエ料理とか茶そばっていうのは、要は静岡で採れたものを楽しんでもらうみたいなイメージですか。

◆市長

そうですね。ここは、基本は、地元のものを使うということが基本ですので、まさに地元のもの、とりわけ地元のものといっても、この井川の特徴は在来種ですので、例えば在来のオランダ、ジャガイモですけれども、井川でしか採れないイモというのがありますから、そういうものを使ってみるとか、非常に特色

ある料理が楽しめると思います。

地元中の地元ですね、まさに地産地消ということになります。

◆静岡朝日テレビ

はい、ありがとうございます。

◆司会

はい。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。ちょっと遅れて聞き逃してしまったかもしれないのですが、エコパークミュージアムの関係で、これ開館日が、木・金・土・日って、ちょっと限られているのは、これ理由は何かあるのでしょうか。その、月・火・水やらないってところ…。

◆市長

はい。まずプレオープンということで、最初の1年目はこれぐらいで始めたいと思っています。まだ受け入れ体制が完全には整っていない、できるだけ地元で運営してもらおうと思っていますので、そういった点でまだこのくらいでしか開館ができないという状況になりますけれども、利用状況を見て増やしていくことももちろんありますが、まずはここをオープンにしてみましようということになります。

◆中日新聞

ありがとうございます。ちょっと追加で。これレストランの、カフェレストランの営業の時間も木・金・土・日の10時から16時っていう理解でよろしいですか。

◆市長

レストランの運営も同じ時間ということになります、はい。

◆中日新聞

ちょっと私、井川の、私の後輩が井川の方に取材に行ったときに、ちょっと、なんですか、工事車両で、通行止めでランチ時を逃してしまって、そしたら井川で何も食べるものがなくてひもじい思いをしたと言っていたので、ぜひ、ちゃんと通して営業して、ひもじい思いしなくて済むようにしてもらえればと思い

ます。

◆市長

はい。それ以外の曜日については、何か食べられるところがありますので、そのあたりもご案内できるようにしておきたいと思います。

まだ今、トンネル掘っていますけれども、まだトンネル開通していませんので、やはりちょっと井川まで行くには途中の道が、なかなか運転が、山道の運転が好きでない人は少し抵抗があると言いますか、かなり抵抗がある方もいらっしゃるけれども、行っていただくと本当に素晴らしいところですから、手間がかかりますけど、時間がかかりますけど、お越しいただければと思います。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆司会

はい。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。よろしくお願いします。

今の井川のミュージアムですけれども、この周辺の宿泊施設とかっていうのは、どれくらいあるのでしょうか。

◆市長

これが非常に弱点になっています。一軒あった旅館も閉館しましたので、まず北からというと、一番北が榎島で、これはロッジになりますけれども、これは自分の車では行けませんので、送迎で行くということになりますけれども、榎島ロッジというのが南アルプスの直下、千枚岳とか、その直下のところにあります。その南になってくると、今度は井川の中に民宿とか、その手前に白樺荘という市の施設がありますので、そこも宿泊できます。そこは温泉が非常に素晴らしい湯ですので、そこも楽しんでいただけますけど、容量が少ないので、なかなか泊まれないかもしれません。

それから、井川の中に今度は民宿が何軒かありますので、そこに泊まっただくということになります。ホテル、旅館として本格的なものはありませんので、そこが課題にはなるのですけれども、こうやって皆さんが来ていただくようになれば、そういったことも考えていきたいと思います。

実際に、元々ミュージアムは、ちょっとご説明が不十分でしたけれども、新しく

造ったのではなくて、廃校になっていた旧井川小学校を改修して、ミュージアムに変えたというものです。国の、ちょうど交付金事業がありましたので、それを活用してやりましたが、3階と4階がまだ空いていますので、宿泊のような需要がもし高まってくれば、その中に3階と4階を宿泊施設に変えるということもあり得ると思っています。

これは、最初の一步として、今回ミュージアムを開館したわけですがけれども、やはり、もっともっと、素晴らしい井川に多くの方に訪問していただけるようにしていきたいと思っていますので、これから宿泊機能についても強化していきたいと思います。

◆司会

その他、いかがでしょうか。先に日経新聞さん、お願いいたします。

◆日経新聞

日本経済新聞です。ビジネスコンテストについて伺いたいのですけれども、前年度に初めて静岡市さんの方でビジネスコンテストを実施されたと思うのですけれども、その効果がすでにどういったものが出ているのかと、あと今年度、少し変更も加えて開かれるということで、期待する効果をお伺いしたいです。

◆市長

はい。まずは、去年は300件、298件の募集をいただきましたので、やはり関心が非常に強いということで、応募数が多かったということで、これは社会課題を解決していきたいという熱い思いを持っておられる方が非常に多い、そして、静岡で活動してみようと思っておられる方が多いということが、まず確認できたというのは大きいと思います。

その中で、10件のチームを編成しましたがけれども、やはり、この特徴は、スタートアップという、例えば、市外・県外にある技術をそのまま持ってくるのではなくて、その人たちの技術と地域社会と一緒に問題解決していこうということで、これが特徴ですので、そういった今動きが具体的に入賞された10件の中で動いています。

入賞しなかったもの以外についても、これはすぐビジネスになるのじゃないかということで、すでに動いている案件もあります。例えば、今、静岡タースというTaaSですけれども、清水港でクルーズ船が来たときに、タクシーと言いますか、有償で運送していますけれども、それもこのコンテストで提案がありました。ただ、コンテストでは静岡TaaSは通らなくて、これはコンテストでやらなくても、すぐ社会実装できるということで、実際にもうすでに動き始めて

います。それで、それをやるためには、市が国土交通省の運輸局に対して申請をしていかないといけないのですけれども、それも市がやっていますので、そういった形で具体化をしていっています。

それからもう一つは、ティー・ツーリズムですね。これについての提案もありました。茶園観光ですね、これについては、すでに今年の4月、5月のシーズンから、実際に提案あった会社とそれから地域が一体となって、今、茶園観光がすでに始まっています。茶園観光って魅力があるのですが、4月、5月のシーズンは、お茶の生産者は非常に忙しいわけです。ですから、それに代わってうまく案内をしてくれるようなガイド養成をしたりするような提案がありましたけれども、それもすでに始まっています。

それ以外にも、脱炭素で蓄電池を使ってやるようなビジネスモデルとか、いろいろ動いていますので、実際に動き始めているのが非常に大きいかと。もう一つは、例えば自治会活動の円滑化ということで、これも自治会の皆さんと一緒に今、新しいシステム作りをしていますので、そうやって具体的に社会課題の解決に向けてみんなでチームを作って、一緒に動き始めているというのが非常に大きな価値が出ていると思います。はい、以上です。

◆司会

はい。その他、いかがでしょうか。先に、静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。あの、大浜公園のリニューアルオープンの関係で何点かお伺いします。プールの営業期間ですけど、7月19日から9月18日までと書いてありますが、これは今シーズンに限ったことをおっしゃっているってことですか。

◆市長

そうですね、はい。

◆静岡新聞

これ、別にこの期間で、日付で、固定しているわけじゃなくて、そのシーズンによってオープンする日と閉まる日ってのは、変わってくるってことですか。

◆市長

そうですね。今年は一応それで始めましたけれども、来年からまた違うと思います。おそらく営業期間はもっと早く始められるのじゃないかなと思います。実は、とにかく今年の夏休みが始まる前までに頑張ろうということで、一生懸命

突貫工事をやっているのですが、まだ工事中です、実は。それぐらい皆さん一生懸命やってくれているので、何とか7月19日、7月16日がプレオープンですので、そこには間に合わせるようにしていますけれども、本来であったらもっと早いときから営業した方がいいと思いますので、来シーズンはもっと早めの営業開始になると思います。

◆静岡新聞

プールの営業期間っていうのは、例えば何かこう限りがあるといいますか、例えばどんどん酷暑、猛暑になってくると、長く営業することが期待されると思うのですが、そういった制限みたいなものは、あるのでしょうか。

◆市長

それはもう全然ないです。これは PFI 事業者が実施しますので、事業者との相談をしながら、それで考えていくことになると思います。

もちろん収益性の問題もありますので、ほとんど人が来ないときに開けると収益にならないので、そういったことも見ながら、プールの営業時間、営業日ですね、それについては柔軟な対応をしていきたいと思っています。

◆静岡新聞

あと、一方で冬場はプール閉鎖されているわけで、このプール部分の冬場の利活用というのも一つの課題かと思うのですが、何か検討されているものはあるのでしょうか。

◆市長

プールサイドでは、いろいろなお店も開いて楽しめるようになっていきます。ちょっとまだ、水をどうするかまで、私は十分把握していませんけれども、やはり水がある空間の横で泳がないのだけど、その横で、例えばコーヒーを飲んだり、お茶を飲んだりするというのは、非常に楽しいと思いますので、非常に気持ちのいい空間でもありますので、そういったことで活用できるのではないかなと思っています。

◆静岡新聞

あと、すいません。この1シーズンのプール部分の、総来場者数に関する予測だとか、目標値はあるのですか。

◆市長

目標値はどのくらい、ちょっと後で資料をお届けします。

◆静岡新聞

はい。あと、すいません、細かいところで、収益施設は来年になるということですが、開館が、前に聞いたときは、機能としてはMICEだとか、結婚式場って説明されたと思うのですが、それはそのまま継続して、そういう機能を持つということでしょうか。

◆市長

はい、宿泊ができるような施設ということで、宿泊はなしでしたっけ。イベントスペースですね。

◆静岡新聞

あと、ごめんなさい、その収益ビル、その事業概要のところなのですが、総整備事業費が37億円余ということですが、この中には収益施設のビルの建設費だとか、駐車場の整備費というのは、入っていないということですか。

◆市長

入っていないです。その中に、ちょっと3ページを開いていただいて、3ページの一番下の辺り、このB00と書いていますが、Build Own Operate施設ということになりますけれども、PFI事業の形態の一つですが、事業者が自らの独立採算事業として施設を、ビルドですから建設して、所有して、運営するというものです。こういうものになりますので、これは完全に独立採算ということになります。

ですから、これは公園事業の外ということになりますので、事業者の裁量でやっていただくことになります。ですので、整備費には入っていないということになります。

◆静岡新聞

これ、あと確認ですけど、その関連で運営費の7億円余、何て言うのですか、交付金として入るということですが、15年間で。これは入場料も徴収する、売上としてもあるのですが、その部分で運営経費としては足りない部分を運営費として賄うという、そういうイメージということでしょうか。

◆市長

運営費としては、そういう意味になります。市の負担分がこれだけということになります。収益部分は除いて、収益分というか、収入の部分は除いて、市が運営費として負担するものが、15年間で7億円、年間5,000万円ぐらいということになります。

◆静岡新聞

入場料を徴収するのですけれども、その売上だけではなかなか全体の支出は賅えないので、これだけ運営費として補うということですね。

◆市長

以前で言うと、ここはプールオープンして無料でしたけれども、年間8,000万円ぐらいの運営費負担をしていましたので、これが今回は5,000万に下がると。その部分は民間事業者の方々が入場料を取ったり、それからいろいろな工夫をしてくださるので、その分だけで維持管理費が下がる、市が負担する運営費が下がるということになります。

◆静岡新聞

ありがとうございます。

◆司会

はい、その他、静岡第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。よろしくお願いします。大浜公園プールの件で、2点伺いたいのですけれども、これまでも市民を中心に愛されてきた施設かと思うのですけれども、改めて再出発するということで、今後15年間ないし、その先も市民にとってどういった施設になることを望んでいるのかという点と、2つ目が、来年をめどで収益施設もオープンするかと思いますが、あの地域一帯にどういった効果をもたらすことを期待しているのかを伺いたいです。

◆市長

ごめんなさい、来年どこがオープン…

◆静岡第一テレビ

来年度収益施設も…

◆市長

収益施設ですね。はい、ありがとうございます。

まずは、ここはプールが注目されますけれども、基本は都市公園です。ですから、一年中楽しんでいただける公園というのが魅力になります。

ちょっと、出していただいて、地図のところ。ここが海岸線ですので、こちらから先は全部海になるわけですから、ここから見る風景って素晴らしいですね。そのすぐこの背後にこういう公園がありますから、まさに海辺の公園として素晴らしい都市公園になると思います。

そして、一年中楽しめますし、それから、例えば、お茶が飲めたりするような施設もありますので、普通の公園というよりも、そういった少しリゾート風と言いますか、そういったことも楽しむ、もちろん近隣の公園でもありますが、遠くからわざわざここまで来て、ここで楽しんでいただけるような公園にもなると思います。

それから、プールについては、新しいプールになりますので、これはこれで少し料金はかかりますけれども、非常に合理的なと言いますか、それほど大きな負担感のない料金でプールを、まさに海の目の前のところでプールを楽しんでいただけたらと思います。静岡市内には、こういったプールはなかなかありませんので、そういった面では非常に貴重な施設として、市民の皆さんには楽しんでいただけるのじゃないかなと思います。

いずれにしても、1930年に開園した公園ですので、95年目ということになりますので、こういう歴史のある公園を、これからまた地域の方々だけではなくて、市民あるいは外から来ていただける方、外からも来ていただいて楽しんでいただける公園に必ずなると思っています。はい、以上です。

それから、収益施設ですね。収益施設も海辺のところにある、この休養施設です。これも海辺のところにあって外が見られる、ちょっと高いところから外が見られるという施設になりますので、これは非常に楽しみです。それからもう一つ大事なものは、静岡は海岸線がものすごく魅力的なんです。蒲原、一番北側と言いますか東側は、富士川の河口のすぐ横ですけれども、そこに今、トライアルパークって道の駅がありますけれども、それもこれからもう少し本格的な道の駅になる予定です。そこから由比を通り、ちょっとまだオープンが遅れるかもしれませんが清水港の中に、新しい海浜公園もオープンしますので、それもある。それから、清水港の中のドリームプラザをはじめ、そういうところもあり、三保松原があり、それから久能のイチゴ街道もあり、マッケンジー邸があり、そして大浜海浜公園、そして用宗ですね。

そうやって海側で、すごくいろいろなものが繋がってきますので、これから海辺

の観光というのも魅力になると思います。もちろん、久能山東照宮のところもロープウェイで行くだけではなくて、下からもっと上がって魅力あるような場所にしたいと思っていますので、これからぜひ、静岡の海側を注目していただければ。

そういったものの中の一つとして、これができたというのは、非常に価値があるものと思っています。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。

◆司会

はい。その他、毎日新聞さん、お願いいたします。

◆毎日新聞

はい、毎日新聞です。以前からもそうだと思いますけれども、非日常を求めて大勢の方が集まるスポットになると思いますが、防災対策、津波発生時などの避難の点とか、何か対策があれば教えていただけますか。

◆市長

はい。ここは、ここに津波避難タワーがありますので、ここに避難をしていただくのがいいかなと思います。ちょっとこれだけでは足りないかもしれませんが、背後にも津波避難ビル等がありますので、そういったことも活用しながら、考えていきたいと思っています。

これができると、これも津波避難ビルになりますので、そういった形で防災の安全対策、防災対策についてはしっかりやっていきたいと思っています。

それからもう一つ大事なのは、ここは運営者がいますので、普通の都市公園ですと運営者がいなくて自由に使っている形になりますけど、ここは、今回は PFI 事業者がいて、ここ全体を運営していますので、そういった形で常時誰かがいて、何かここであれば避難誘導できるということがありますので、そういった面でも、今までよりもより防災性が高いと言いますか、安全性が高い施設になると思っています。

◆司会

その他、発表案件についてのご質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、先ほどの大浜公園の入場者ですね。

◆緑地政策担当部長

緑地政策担当部長の杉村です。よろしくお願ひします。先ほど、大浜公園の目標人数のご質問あったかと思ひますけれども、リニューアルオープン前の大浜プールが、約10万人、年間10万人の利用がありましたので、今年初年度ということもありますので、その10万人以上というところを目指していきたくて考えております。以上です。

◆市長

あくまでプールです。それから、年間を通したらちょっと別ですけども。すいません、それから一つ訂正ですが、井川のミュージアムですけども、4階建てではなくて3階建てですので、3階が今、まるまる空いている状況になっていますので、そこが宿泊施設という需要が出てくれば、それを宿泊に変えていくということはあると思ひています。失礼しました。

◆司会

はい。では、日経新聞さん、お願ひします。

◆日経新聞

たびたびすいません。日経新聞です。今、大浜公園の話ありましたけれども、エコパークミュージアムについても誘客の目標とかがあれば伺いたくてですね。まだトンネルが開通していないのもあって、すぐに大幅な、たくさんの方が来るのは難しいかもしれないのですけれども、そのお考えを教えてください。

◆市長

ここは、やってみないとわからないです。目標は一応設定していますけれども、本当に距離があるので、どのくらい皆さんに使っていただけるかというところは、未知なところがあります。ただ、施設としては非常に魅力的ですので、ぜひ話題になるようにしたいと思ひますが、では、目標人数。

◆環境共生課エコパーク推進担当課長

環境共生課エコパーク推進担当課長石田と申します。よろしくお願ひします。今年度に関しましては、一応目標7,000人という設定をしています。来年度以降ですけど、未知数なところありますが、まずは来年度以降1万人、さらに2万人まで持っていけたら成功なのかなというふうに、今想定しているところで。以上です。

◆市長

井川はですね、人口 400 人を割っていますので、そういうところに、それぐらいの、1 万人を超えるような人に来ていただくと、我々としては非常に、地域の活性化効果も高いなと思っています。

もちろんミュージアムですので、南アルプスについて知っていただくということも非常に大事ですけれども、地域活性化効果というのを期待していますので、できるだけ多くの方に来ていただければと思っています。

◆日経新聞

承知しました。2 万人は、ミュージアム単体での数字なのか、先ほど市長がおっしゃっていた宿泊施設など、周辺も盛り上がってくるってことでしょうか。

◆市長

まさにそういうことです。まずは、よく鶏と卵という話がありますけれども、需要と供給ですね、やはり需要がないと供給されないので、今、1 軒ある旅館が閉まったのも、やはりちょっと入り込みの人数が減ってきたということもあります。ですから、これで活性化をしていって、泊まりたいという需要が増えてくれば、そういったホテル、旅館、こちらについても供給が増えてくると思います。

新しいものを建てなくても、いろいろな、例えば古民家のようなところもありますから、古民家を活用した宿泊施設みたいなのも非常に魅力的だと思いますので、とにかくミュージアムを核にして、1 人でも多くの方に来ていただけることが、全体の魅力の向上に繋がるとと思っています。

◆日経新聞

ありがとうございます。

◆司会

はい、それでは、発表案件についてのご質問は、以上ということでよろしいでしょうか。

はい、それでは、幹事社質問に移りたいと思います。共同通信さん、よろしくお願いいたします。

◆共同通信

はい。共同通信です。よろしくお願ひいたします。幹事社から 2 点お伺ひします。1 点ずつお答えいただければと思います。

まず 1 点目ですが、昨日、第 27 回の参院選が公示されました。県内では 7 人の候補者が物価高対策などの争点を巡って論戦を交わすことになりそうですが、選挙戦でどのような論戦を期待されるでしょうか。また、補選を除く国政選挙で、投票日が 3 連休の中日になるのは、現行憲法下で初めてとなります。低投票率を懸念する声もありますが、どう受け止めていらっしゃるのでしょうか。対策などもあれば教えてください。

◆市長

はい、最初の選挙戦でどういう論戦を期待するかということですがけれども、今お話ありましたように物価高の対策、これが大きな話題になっています。物価高に非常に苦しんでおられるということが争点になるというのは、これは理解できませんけれども、それだけでは私は不十分だと思っています。

以前から申し上げていますがけれども、やはり日本は物価高も問題ですが、もう一つの問題は所得がずっと 30 年上がってきてないということです。ですので、低成長というところが一番大きな問題ですね。ですから、中長期的な課題として成長戦略、これをしっかり論点として挙げていただく必要があるのではないかなと思っています。

日本経済の構造的な問題で、供給力が不足しているということですね、国際競争力が低迷しているので、伸びていけないので、所得も上がっていかない、あるいは生産性も上がらないので所得が上がらないということがありますから、やはりこれは日本の大課題としてこの成長戦略、低成長を変えていくということですね、これについてしっかりとした議論をしていただけたらなと思っています。

参議院というのは、「良識の府」と言われていますので、私、最近時々紹介しているのですがけれども、「失われた 30 年に誰がした」という本ですね、リチャード・カツツさんだったと思いますけど、その方の書いている本で、やはり日本経済が失われた 30 年という理由はもう明確なわけで、やはりこちらの競争力、供給力ですね、あるいは成長戦略が十分でなかったところでもありますから、それについて、しっかりとした論戦をしていただければなと思っています。

それからもう 1 つ、投票日ですね。これが 3 連休の中日になるということですがけれども、やはりちょうど夏休みのところの 3 連休の中日ですので、何らかの形で投票行動に影響が出るというのは十分ありえると思います。それに対しての対策ということですがけれども、今は期日前の投票がずいぶん進んできて

いますので、ぜひぜひ期日前の投票をやっていただければと思います。あるいは旅行のご予定の合間にちょっと寄っていただいて、1票を投じていただくというのが一番よろしいかなと思います。

1日だけだと、本当に今はとんでもなく暑かったりしますので、今日はちょっと涼しそうとか、今日なら出かけてもよさそうだなというような日を選んでいただいて、むしろ積極的に期日前投票をしていただくのがいいのではないかなと思っています。

我々も、我々と言っても選挙管理委員会ですけど、選挙管理委員会がそういった期日前の投票の周知にも力を入れていますので、皆様が投票できる機会というのを、環境づくりというのを進めてまいりたいと思います。以上です。

◆共同通信

ありがとうございます。2点目ですが、先日市内の60代の女性が、マダニが媒介する感染症重症熱性血小板減少症候群に感染し、死亡する事案がありました。その後も、県内で相次いで感染が確認されていますが、市民に対する注意喚起、呼びかけがあれば、よろしく願いいたします。

◆市長

はい。これは十分注意していただく、注意するしか方法がありませんので、十分注意していただきたいと思います。2013年に感染症法上の4類感染症にSFTSというものが、非常に名前が難しいのですが、重症熱性血小板減少症候群ということですが、これも、これが指定されましたけれども、県内では2021年に初めて感染の例が報告されました。それ以降、先ほど県内、市内ではなくて県内に2021年に初めて報告されています。その後ですけれども、だいたい年に4~6件発生をしています。静岡市では、今年で6月に2例発生して、市の累計ですね、2021年以降ということになりますけど、3例ですので、今年是非常に例外的に多いという年になっています。

この今年の2例ですけれども、公表時点では感染経路が不明だったのですけれども、その後の調査でマダニに咬まれた跡が見つかったということと、それからどういう行動をされていたかということで、畑で作業をされていたときに、どうもマダニに咬まれたようだということです。

感染を避けるためには、とにかくマダニに咬まれないようにすることが大事ですけれども、マダニがどこにいるかということ、野山であったり、草むらだったり、畑だったり、そういうところにいますので、どこにいるかということは予測できませんので、今、活動活発になっていますので、こういった野山とか、草むらとか、畑に立ち入る時には、マダニが肌につかないようにする。具体的に

何をやるかという、長袖だとか長ズボンだとか、あるいはズボンは靴の中に入れるとか、首をタオルで巻くとかですね、そういった方法しかないと思いますので、とにかく肌の露出を少なくするということになります。もちろん虫除けスプレーも大事だと思いますが、とにかく近づかないというか、近づくときには防護するということですが、当然ですけど畑の作業というのは必ずやりますので、やらないをするというわけにいかないの、やはり注意をしていただくのが、咬まれないように注意をするというのが、これ一番だと思います。いろいろな対処方法ありますけれども、もし咬まれたときは、なかなか気づきにくいので、ちょっと違和感があったりしたときは、例えば、シャワーをすることか、入浴時に体に付いていないかなとか、そういうところに立ち入った後、汗をかいていると思いますが、シャワーやお風呂に入るときに、ちょっと確認するというのはあると思いますが、なかなか分からないと思いますから、とにかく露出を、肌の露出を少なくするというのが一番の対策だと思います。以上です。

◆司会

はい、それでは、ただいまの幹事社質問に関連したご質問をお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。はい、中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

参院選の関係でちょっとお伺いします。先ほど、低成長を変えていくっていう、そういう論戦を期待するとおっしゃっていましたが、難波市長は、県内で立候補されている特定の候補を、どなたか応援するようなお考えはあるのでしょうか。

◆市長

応援する予定はないですね。

◆中日新聞

わかりました。

◆市長

応援する予定というのは、現場に行つて応援をしたりする予定はありません。

◆中日新聞

はい。

◆司会

その他、いかがでしょうか。はい、では、幹事社質問に関連したご質問も以上ということによろしいでしょうか。

はい、それでは、その他のご質問があればお受けをしたいと思いますが、いかがでしょうか。

はい、その他のご質問もよろしいですか。では先に、静岡第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ

何度もすいません。静岡第一テレビです。すいません、2点伺いたいのですけれども、ちょっと別々の案件で。

1件目が伊東市長の学歴詐称疑惑というか、案件で日々の全国的にもニュース続いていますけれども、一旦、現状では卒業ではなく除籍だったということが本人の口から判明しまして、市議会並びに伊東市民に影響を与えているかと思うのですけれども、同じ首長として、今回の一連の案件をどう見ているか、意見があれば伺いたいです。

◆市長

はい。まず、市長の責任のとり方、これはご本人がお決めになること、判断されることだと思いますので、それについてはコメントを控えたいと思います。

ただ、今のお話で言うと、一般的にどう思うかということで申し上げますと、私、よく言っているのですが、市長というのはその政治家でもありますけど、行政組織のトップですね。ですから、行政としての判断基準というのが非常に大事になります。

それからもう一つは、市長というのは執行権を持つ政治家ですので、政治家として重要なのは価値判断ということです。ですから、行政判断であるとか、あるいは価値判断というところは、非常に求められるというところですので、そこが大事かなと思います。

行政判断として、あるいは価値判断として、とりわけ行政判断ですけど、私が何を重視しているかということをお知らせすると、これは違法ではないから良いという、違法ではないのは当たり前なんです。違法なことはやっちゃいかんわけです。大事なのはその合法ですね、その法律を満たすというだけではなくて、倫理的な観点とか社会的通念上から良いかどうかということの判断が大事ですので、それは市の職員にも、我々はそこが大事だよということを申し上げています。もう一つ、ちょっと個人的になりますけど、私の非常に近い、身内といってもいいのですが、大学卒業をするのに非常に苦労した者がおりまして、単位を

落として足りないから卒業できないわけです。それで、結局、その単位をちょっと、ほんのわずかの単位だったのですが、それを満たすのに1年半余計に行って、余計というのは、1年半大学に長くいることになって、その間、大学を卒業できていないので、企業への就職もできないわけです。いちおう内定していたのですが、認められないわけです、卒業しないので。

だから、卒業するかどうかということは、単位を何単位取るかどうかということですので、単位取ってなかったら卒業できないわけです。ですから、ものすごく成績優秀で、山ほど単位を取って、そんなの関係ないという人は別ですけど、非常に近い人は、なかなか単位が取れない人物だったので、たいへん苦勞して卒業したという経緯がありますので、やはり卒業ということについては、単位がどうなっているかということをものすごく意識しますので。ですから、それだけちょっと、個人的な話題として申し上げておきたいと思います。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。もう一点、すいません、失礼いたします。しずток商品券の件で、今週7月1日から運用が始まりましたけれども、以前も伺った内容だったら申し訳ないのですけれども、結果的に今年は第1回目で想定以上の数字が来まして、去年よりも反響が多いのかなと思います。

改めて反響が多かったことについての受け止めと、街頭でお話を聞いているとありがたいという声がある一方で、ちょっと、今年も知らなくて、乗り遅れだったり、応募できてなかった人が、第2回目をやってほしいという声を聞くのですけれども、ちょっと気が早いですけれども、来年以降の継続や運営に何かお考えがあれば伺いたいです。

◆市長

はい。このしずток商品券というのは、非常にいいやり方ではないかなと思っています。何がいいかというと、例えば給付であるとか、減税、これはこれで大事なわけで、全国一律でやるということで大事なのですけれども、これはやったときには貯蓄に回る部分が結構あるわけです。だから、給付されたけど、別にそれがなくても消費行動は変わらないという方については、物価高対策にもなってないわけですが、そういう方々にも、給付が行くという形になります。これは本当に使いたい人に渡るといって、応募したら必ず使っていただけますので、これについては本当に必要とされる方のところに行くという形になりますので、効率的なのではないかなと思っておりますので、ただ、原資がありますので、国からそういった形で交付金などをいただいたときには、その時々事情に応じて、しずток商品券をまた再発行するという事も考えていきたい

と思っています。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございました。

◆司会

はい。では、中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

すいません。しずトク商品券の関係で、ちょっと追加でお伺いします。難波市長は何口購入されたのでしょうか。

◆市長

2口購入したのですけれども、60万口で応募が多そうだったので、ちょっと遠慮して2口にしたのですが、4口にしてあげればよかったなど、今思っているところですが、2口は一応購入できましたので…。

◆中日新聞

すいません。遠慮していただいて、ちょっとありがたいと思っているのですが、ちょっと半分ひがみも入っているのですが、この前、市長のボーナスも公表されて、結構たくさん貰ってらっしゃるなというふうに思って、ちょっと羨ましかったのですが、なので何て言うのですかね、別に難波市長は、たぶんお金に困っていないのではないかなというところで、しずトク商品券、しずトク商品券、もっと、もうちょっと何て言うのですかね、低所得な人たちへの支援というところを、もうちょっと強化した方がよいのではないのかなというふうに、ちょっと個人的には思ったのですが、なんて言うのですかね、しずトク商品券、元々所得制限とかそういうのもないですし、そういう、もうちょっと、本当に困っているところの人への支援っていうところでは、ちょっと、どのような課題が見えてきたかっていうのを、ちょっと教えていただければと思います。

◆市長

消費税と減税とか、いろいろ全体の制度ありますけれども、やはりしずトク商品券だけじゃなくて、こういう制度自身がどういうものかというのは、やはり考えないといけないと思います。

それで、昨日でしたか、2日ぐらい前の日経新聞に出ていましたけど、食品の消費税をゼロにすると何が起きるかということですが、例えば、所得が

200万円ぐらいの方ですと、年間の食品に関する消費税の負担が5.4万円ぐらいですかね。それで1,000万超の方、統計ですよ、統計でやると1,000万超の方で言うと、10万円を超えるぐらいの食品消費税払っているわけです。そこで食品の消費税をゼロにすると何が起きるかということ、高所得の人はそこで減税額大きいわけです。それで所得が200万円未満の人の方が、より減税額が小さいわけですね。ただ、それは、やはり国の機能として大事なことは、所得の再分配ですね。ですから、本当に困っている方に、困っていない人から所得が分配されるということが大事なので、やはり減税のところというのは、その問題があるわけです。そういったところもやはり考えていかないといけないと思います。そういったところからすると、このしずく商品券のような形の方がやり方としては良いのではないかなと思います。あまり個人の所得の問題、私自身のことまで言い出すときりがなくなるので申し上げますけれど。

それで、もう一つ、給付も同じことが起きるわけです。給付についても一律2万円とか、一律2万円じゃなくて、子育て世代とかそういうところについては増額しますけど、でも2万円の給付をやるということは、これは所得の高い方は、その2万円のところは別にそれがなくても消費行動は変わらないので、実態的には貯蓄に回るということですので、景気対策にもならないし、その人に対する支援にもほとんどなっていないわけで、そういったところでお金を配、給付するというのが本当にいいのかなというのがあるので、やはりその公平性であるとか、所得の再分配の問題であるとか、そういったことを、やはり、こういう制度を考えると、給付にしても減税にしても、あるいはこのしずく商品券のような制度においても、やはりそのところは誰の支援になるのかというところは、よく考えて制度設計する必要があると思っています。

◆司会

はい。その他、いかがでしょうか。ご質問よろしいでしょうか。
それでは、以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。

◆市長

はい、ありがとうございました。

◆司会

ありがとうございました。次回は、7月18日金曜日、11時からの予定となります。よろしくお願いたします。